

# エコアクション21 環境経営レポート 2018年

対象期間2018年1月1日～2018年12月31日



発行日 2019年2月15日



平澤電機株式会社

# 目 次

## 1 組織の概要

- 1) 事業者名、所在地、事業の概要 事業の規模
- 2) 沿革
- 2) 設備概要

## 2 対象範囲

- ・環境経営組織図

## 3 環境経営方針

- ・環境経営理念 環境経営方針

## 4 環境経営目標

- 1) 中期環境経営目標
- 2) 2018年環境経営目標

## 5 環境経営計画

## 6 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制を含む)

## 7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価(実績には二酸化炭素排出量を含む)、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

- 1) 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価
- 2) 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

## 8 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

「環境法令等遵守チェック表」より

## 9 代表者による全体評価と見直し・指示

マネジメントレビューより

## 10 その他の取り組み

総合防災訓練他

# 1 組織の概要

## 1) 事業者名、所在地、事業の概要、事業の規模

- (1) 事業者名 平澤電機株式会社  
代表者名 代表取締役 平澤 敏樹 (2018/12/1より)
- (2) 所在地 本社・工場 〒399-4431長野県伊那市西春近2900番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
環境管理責任者 環境管理事務局  
担当者 総務部長 浦野 安明  
連絡先 電話 0265-72-4136 FAX 0265-76-1990  
ホームページ <https://www.hirasawadenki.com/>  
e-mail [info@hirasawadenki.com](mailto:info@hirasawadenki.com)

### (4) 事業の規模等

- 1) 創業 昭和35年7月  
2) 事業規模 右表  
3) 資本金 1050万円

活動規模	単位	2016年	2017年	2018年
生産量	百万円			
売上高	百万円	399	519	538
従業員	人	45	50	58
床面積	m <sup>2</sup>	7260	7260	7260

### (5) 事業内容

アルミを中心とした金属の精密切削加工、組立・検査

## 2) 沿革

昭和35年	日立家電販売修理を業務として平澤電機株式会社を設立
昭和40年	工作所設立、オリンパス製品加工開始
昭和43年	オリンパス顕微鏡組立開始
昭和49年	オリンパス光学、カメラ組立開始
昭和59年	本社工場(延べ床面積3,300m <sup>2</sup> )建設工作所・中央工場を併合集約
昭和63年	姉妹会社(株)アジアエレクトロニクス設立
平成 元年	信濃特機(株)子会社の天竜特機(株)を引き継ぎグループ3社とする
平成 2年	資本金1,050万円に増資
平成 7年	本社工場南側増築工事完了
平成 9年	本社工場北側増築工事完了
平成12年	ISO9001取得
平成17年	1F北側工場改築(延べ床面積5,980m <sup>2</sup> )
平成18年	環境 エコアクション21取得
平成19年	北側新工場建築(5軸加工機専用)(延べ面積7260m <sup>2</sup> )
平成20年	厚生労働省快適職場認定
平成21年	エコ通勤優良事業所認証
平成25年	長野県労働局長奨励賞受賞
平成27年	エコアクション21 登録・認証10年継続事業者表彰

### 3) 設備概要

5cmから5mまでのアルミの精密切削加工を得意としております

#### 主要設備一覧

2019年1月現在

種類	メーカー	形式	移動量	特徴	台数	
マシニングセンター★	安田工業	YBM-1200N ①	X3000 Y2100 Z1500	横形 4パレット仕様	1台	
	★ 新日本工機	RB-350F ②	X8000 Y3500 Z1700	門形 5軸	1台	
	東芝機械	MPF-3140DS	X4000 Y3100 Z715	門形	1台	
	牧野フライス	a51	X560 Y560 Z560	横形	1台	
	★ 2017年9月新規導入★	牧野フライス	a51nx ③	X560 Y640 Z640	横形 立体3段パレット仕様	1台
	牧野フライス	A55-A128	X560 Y560 Z560	横形 8パレット仕様	1台	
	牧野フライス	A55-A288	X560 Y560 Z560	横形 8パレット仕様	1台	
	★ 牧野フライス	a81	X900 Y800 Z1020	横形 8面パレット仕様	1台	
	★ 2014年10月新規導入★	牧野フライス	a61nx ④	X730 Y730 Z680	横形5軸立体3段パレット仕様	1台
	★ 2018年12月新規導入★	牧野フライス	a500Z ⑤	X730 Y750 Z500	横形5軸立体3段パレット仕様	1台
	牧野フライス	FNC156	X1500 Y600 Z560	立形	1台	
	牧野フライス	GN1712	X1700 Y1200 Z700	立形	1台	
★ 牧野フライス	MC1513	X1500 Y1300 Z1000	横形 6パレット仕様	1台		
NC旋盤	ツガミ	NU4Y	X135 Y50 Z190	同機種 他に2台	1台	
★ ヤマザキマザック	INTEGREX200-ⅢS	X580 Y160 Z1045			1台	
★ ヤマザキマザック	INTEGREX300-ⅢS	X630 Y230 Z1585		背面加工可能	1台	
	ヤマザキマザック	INTEGREX300Y	X580 Y210 Z1095		1台	
	森精機製作所	ZL-250MC	X235 Y170 Z615		1台	
NCフライス盤	牧野フライス	AEV-85	X850 Y500 Z400		1台	
三次元測定器★	ミツヨ	Bright-Apex1220	X1205 Y2005 Z1005		1台	
	ミツヨ	CRYSTA-ApexS9106	X905 Y1005 Z605		1台	

★…主要設備

#### CAD/CAM情報

使用しているCAD/CAMソフト

VERICUT (CGTech)

AutoCAD (オートデスク株式会社)

NCVIEW (シンプルテック株式会社)

CAM-STAFF (株式会社ソフテック)

Mastercam (CNC Software, Inc.) 3台

SolidWorks (ダッソーシステムズ) 3台



## 2 対象範囲

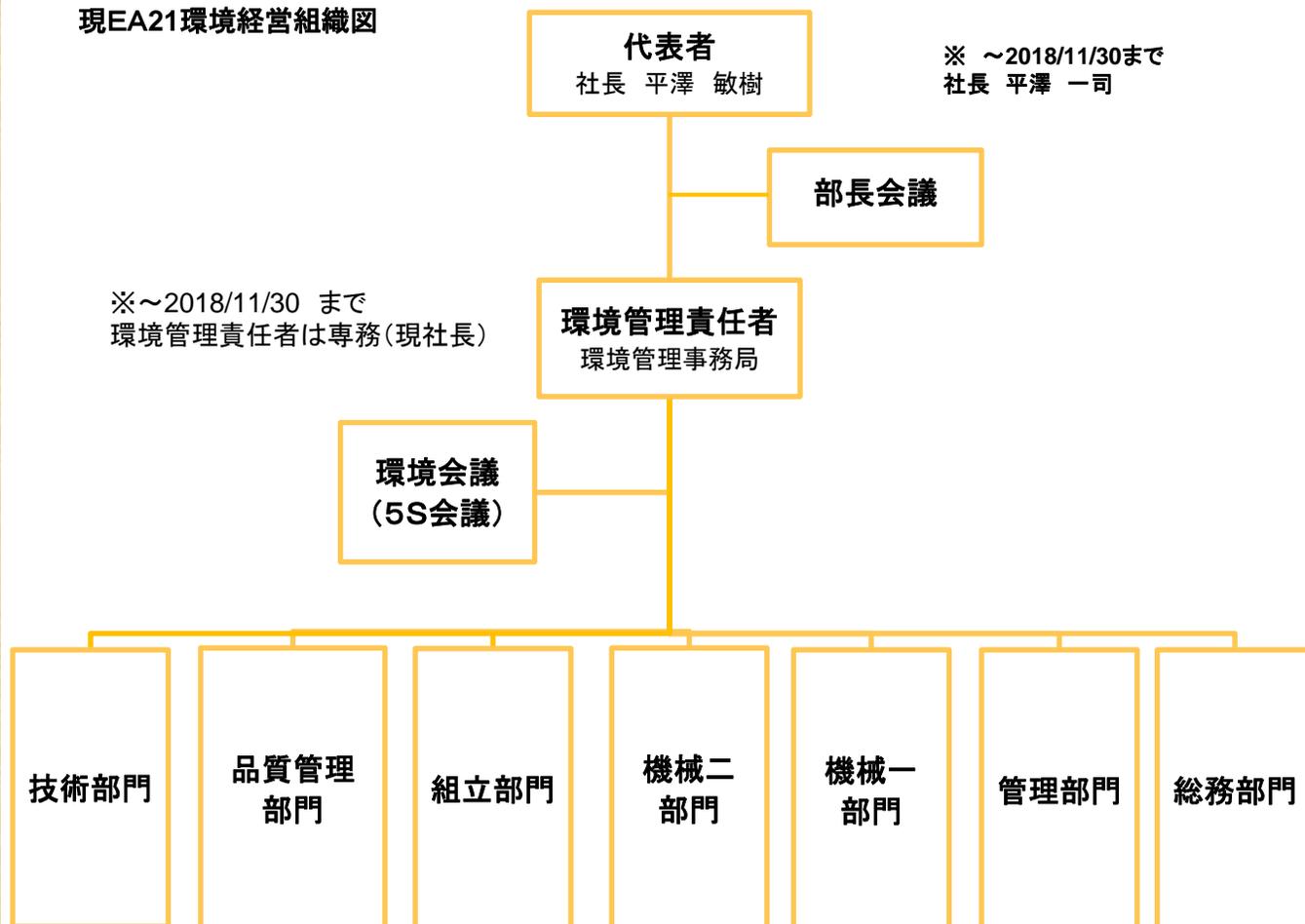
対象期間： 2018年1月1日～2018年12月31日

発行日： 2019年2月15日

対象範囲： 長野県伊那市西春近 2898番地～2900番地にある平澤電機株式会社の所有するすべての土地・建造物とそこで働く全従業員が対象組織であり、その組織のすべての活動をもってエコアクション21に取組み、環境経営システムを構築、運用、維持するものとする。

平澤電機株式会社は以下の組織に基づき環境活動を行っている。

現EA21環境経営組織図



### 3 環境経営方針

#### <平澤電機株式会社 環境経営方針>

##### 環境経営理念

自然環境に優れたこの地に存在する私達平澤電機株式会社は、この豊かな自然環境に感謝と誇りの念を持ち、一人ひとりが自主的な環境保全の意識を持って環境負荷低減に向けた活動を行い、人と地球にやさしい工場作りを目指します。

##### 環境経営方針

- 1.適用される環境関連法規等や当社が約束したことを遵守します。
- 2.製造部門での品質安定化・製造工程短縮化によって二酸化炭素排出量・使用化学物質・廃棄物・水の使用量の削減、及び省資源の推進をはかります。
- 3.事業活動によって生じる廃棄物のリサイクル化に取り組みます。
- 4.環境や資源に配慮した製品や原材料調達を心がけます。
- 5.水質汚濁の防止に努めます。
- 6.全従業員に朝礼、会議、研修、掲示等でこの環境方針を周知・理解させ、環境に関する教育訓練を行います。
- 7.従業員にエコ通勤をすすめ、社用車でのエコ運転の実施に努めます。
- 8.経営における課題とチャンスを考慮して環境経営目標を定め、それに取り組み定期的に見直しをすることにより環境経営の継続的な改善を行います。

2018年12月25日  
平澤電機株式会社  
代表取締役社長 平澤 敏樹

## 4 環境経営目標

### 1) 中期環境経営目標(2016-2018)は以下の通り

環境目的	具体的目標	責任者 / 対象部門	基準年度 / 基準値	2016年	2017年	2018年
二酸化炭素排出量削減	電気料金削減・デマンド管理 ▲	専務/全社	2015年月間ピークデマンド	350kw以下	350kw以下	350kw以下
	冬季(12月~2月)を除いたエコ通勤の維持継続・エコドライブ実施 ▲	総務・管理部門長 / 全社	2015年目標値 / エコドライブ実施	2つのデマンドコントローラー制御・節電・空調設備管理 電気料金削減の工夫		
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ・廃油削減維持・廃棄物管理 ▲	総務部門長・機械一 / 全社	2015年目標値 / 可燃ゴミ160kg / 月以下 / 廃油2.17t / 月以下	1%削減	2%削減	3%削減
	機械・備品の長期使用 ◆	製造部門長	部門目標	各種メンテ・点検の実施・修理実施・部品リサイクル促進		
水源投入量削減	水源投入量維持管理・有効活用 ▲	専務・総務部門長 / 機械一・二部門 / 全社	110トン/月以下 ※7月~9月を除く月投入量目標	110t以下	110t以下	110t以下
	使用禁止物質の使用禁止★ / 使用化学物質削減管理	管理部門長 / 製造部門長	維持部門目標	漏水チェック、洗浄・バレル水節水・切削水管理 夏場の有効活用検討		
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持★	総務部門長 / 管理部門長	活動維持	部門目標	部門目標	部門目標
	売上・利益UP ◆	総務・管理・技術	部門目標	取引先使用禁止物質調査・維持 部門使用化学物質管理削減		
製品への環境配慮その他	工程時間削減・環境負荷削減の工夫 ◆	製造部門長 / 技術部門長	部門目標	部門目標	部門目標	部門目標
	不良損金削減 ▲	品質管理部門長	品質目標と同じ	新規取引先の開拓・各種経費削減・本業強化		
				工数把握、工程短縮方法の検討、プログラム修正・コスト削減 工夫 検証		
				部門設定	部門設定	部門設定
				不良損金集計表の作成・掲示、不良発生原因調査・対策実施		

目標値は ★継続目標 ▲数値目標(基準値あり) ◆部門目標 として展開する

## 4 環境経営目標

### 2) 2018年環境経営目標は以下の通り

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等
二酸化炭素排出量削減	電気料金削減・デマンド管理	専務・事務局/全社	ピークデマンド 350kw以下
	冬季(12月～2月)を除いたエコ通勤の維持 継続・エコドライブ実施	総務・管理部門長/全社	月平均 29日以上 ※1.2.12月を除く
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ・廃油削減維持・廃棄物管理	総務・機械1部門長/全社	可燃ゴミ155kg/月 廃油2.10t/月以下
	機械・備品の長期使用	製造部門長	各部門目標
水源投入量削減	水源投入量維持管理	専務・事務局/機械一・二部門・全社	110トン/月以下
化学物質使用量削減	使用禁止物質の禁止・使用化学物質削減管理	管理部門長 製造部門長	維持 部門目標
グリーン購入の実施	グリーン購入維持	総務部門長 管理部門長	維持
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・技術	各部門目標
	工程時間削減・環境負荷削減の工夫	製造部門長 技術部門長	各部門目標
	不良損金削減	品質管理部門長	月34万以下

## 5 環境経営計画

### 2018年 環境経営計画書

具体的目標	責任者/対象	目標値等	2018年の主な計画内容
電気料金削減・デマンド管理	専務・事務局/全社	ピークデマンド 350kw以下	①デマンドコントローラー・スマートクロックによる監視・管理 ②エアコン稼働調整 ③節電設備検討 ④省エネ委員活動 ⑤節電表による管理継続
冬季(12月～2月)を除いたエコ通勤の維持継続・エコドライブ実施	総務・管理部門長/全社	月平均 29日以上 ※1.2.12月を除く	①エコ通勤呼びかけ、活動報告掲示 ②駐輪場整備・自転車点検整備等 ③ノーマイカーウィーク参加 ④社用車のエコドライブの実施
可燃ゴミ・廃油削減維持・廃棄物管理	総務・機械一部門長/全社	可燃ゴミ155kg/月 廃油2.10t/月以下	①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけ ②月ごと結果発表掲示 ③コピー両面使用 ④電子媒体促進、配布書類削減 ⑤廃棄物削減把握削減 ⑥油漏れ対策
機械・備品の長期使用	製造部門長	各部門目標	①予知保全を考慮した各種設備備品日常・定期点検の実施 ②整備点検教育の実施 ③各種精度点検の実施 ④レベル点検 ⑤設備保全技能教育
水源投入量維持管理	専務・総務部門長 /機械一・二部門・全社	110トン/月以下	①毎月使用量内訳再把握 ②水漏れ点検 ③生活排水の節水呼びかけ ④月使用量のグラフ作成掲示
使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理部門長 製造部門長	維持 部門目標	①使用禁止物質の含有量調査(客先調査協力時)記録 (管理部門) ②新規溶剤等購入時にSDS取得 ④主要溶剤・切削油管理・削減(製造部門)
グリーン購入維持	総務部門長 管理部門長	維持	①グリーンサプライヤーからの購入維持 ②グリーン調達基準に基づく購入継続
売上・利益UP	総務・管理・技術	各部門目標	①新規品の取り込み、新規開拓 ②材料費の見直し ③経費分析 経費節減
工程時間削減・環境負荷削減の工夫	製造部門長 技術部門長	各部門目標	①工数把握 加工時間短縮 ②工程管理表の有効活用 ③プログラム修正 ④工程削減治具作成 ⑤外段取りの構築 ⑥環境負荷削減の工夫・検証
不良損金削減	品質管理部門長	品質目標と同じ	①不良集計表の作成・掲示 ②不良原因調査・対策実施 ③不具合対策表・不良損金報告書作成

## 6 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制を含む)

### 1 二酸化炭素排出量削減

- ①デマンドコントローラー・スマートクロックによる監視・管理
- ②エアコン稼働調整----7月8月9月に実施、部門毎10分間エアコンストップのローテーションを行なった。
- ③節電設備検討-----地下水の有効活用検討中
- ④省エネ委員活動-----毎日節電実施したのを記録 結果を部門毎に掲示
- ⑤水銀灯を順次LEDに交換した。
- ⑥可能な場所では天井照明から手元照明へ
- ⑦1F機械工場の搬出用大扉(鉄製)と2F組立部屋の窓サッシに断熱処理をした。
- ⑧毎月月初に電気使用量とCO2排出量のグラフを掲示
- ⑨工数削減、治具の改善等作業の効率化

### 2 廃棄物排出量削減

- ①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけと月初に可燃ゴミ月ごと結果発表掲示
- ②配布書類削減のためコピー両面使用継続中
- ③電子媒体促進---公的機関提出物関係電子申請一部移行
- ④廃棄切削油把握削減---目標管理を実施 結果グラフ掲示
- ⑥油漏れ対策----職場の3S・機械メンテの徹底 A55機修理等行い削減
- ⑦予知保全を考慮した各種設備備品日常・定期点検の実施
- ⑧整備点検教育の実施 /各種精度点検・レベル点検実施
- ⑨設備保全技能教育----機械保全技能士 4名受検

### 3 水源投入量削減

- ①毎月使用量内訳把握は全社分と機械一部門4箇所に設置した加算メータの  
により生活使用水が把握可能となった。また毎月使用量のグラフ作成掲示した。
- ②水漏れ点検は毎月実施した。(期間内水漏れ無し)
- ③生活排水の節水呼びかけ

### 4 化学物質使用量削減

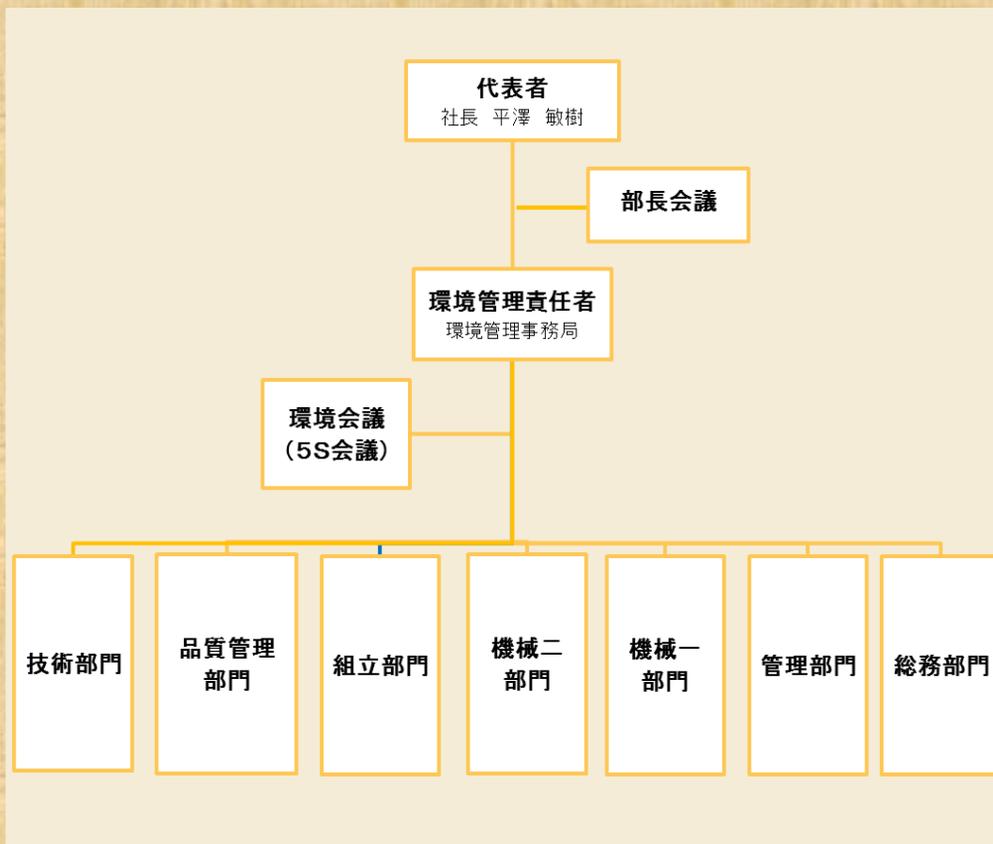
- ①使用禁止物質の含有量調査(客先調査協力時)6月12月実施(管理部門)
- ②新規溶剤等購入時にSDS取得----期間中無し
- ③主要溶剤・削減 組立部門・機械二部門で毎月管理継続中

## 5グリーン購入の実施

- ①グリーンサプライヤーからの購入維持とグリーン調達基準に基づく購入継続中

## 6製品への環境配慮その他

- ①新規品の取り込み、新規開拓----新規品取り込み月3件以上、新規2社開拓
- ②材料費の見直し----主要仕入業者37社に材料費見直しを依頼、コストダウンできた。
- ③経費分析 経費節減-----助成金利用1件、配置薬見直しなど。
- ④工数把握 加工時間短縮----加工機械の変更、専用治具の作成
- ⑤工程管理表の有効活用-----専用ソフトを使って工程チェック、加工工程の作業者各自が消し込作業により工程遅れの明確化
- ⑥プログラム修正-----随時実施
- ⑦工程削減治具作成-----治具の見直しと複数工程対応治具作成 毎月3件以上作成
- ⑧外段取りの構築-----シミュレーターチェック実施と作業標準書作成
- ⑨不良損金削減-----不良集計表の作成・掲示と不良原因調査・対策実施  
不具合対策表・不良損金報告書作成



実施体制

## 7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価(実績には二酸化炭素排出量を含む)、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

### 1)環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価

2018年 環境経営目標進捗表

環境目的	具体的目標	責任者/対象部門	目標値	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	対象期間累計平均値 達成状況
二酸化炭素排出量削減	電気料金削減・デマンド管理	専務/全社	ピークデマンド 350kw以下	346 ○	349 ○	331 ○	322 ○	280 ○	349 ○	396 ×	384 ×	347 ○	306 ○	298 ○	349 ○	338 ○
	エコ通勤の維持継続/エコドライブの実施	総務・管理部門長/ 全社	エコ通勤月平均 29日(1・2・12月)	65 ○	58 ○	76 ○	76 ○	93 ○	87 ○	80 ○	69 ○	56 ○	67 ○	72 ○	63 ○	75.1 ○
廃棄物排出量削減	可燃ゴミ削減・廃棄物管理	総務部門長・機械 一部門長/全社	155kg/月 2.10t廃油	152 0	160 1.6	145 1.6	236 2.1	110 2.0	138 1.5	162 2.45	135 1.6	148 1.5	160 1.8	150 1.95	240 3.50	161.3 1.80 △
	機械・備品の長期使用	各部門長/全社	各部門目標 4部門	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○							
水源投入量削減	水源投入量維持・管理	総務部門長 機械一・二部門長/全社	110 <sup>トン</sup> /月以下	74 ○	107 ○	69 ○	82 ○	85 ○	93 ○	99 ○	100 ○	105 ○	115 △	133 ×	100 ○	96.8 ○
化学物質使用量削減	取引先使用禁止物質の使用中止/ 化学物質削減	管理部門長 製造部門長	活動維持	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○							
グリーン購入の実施	グリーン購入維持	総務部門長 管理部門長	活動維持	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○	維持 ○							
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP(経費削減)	管理・総務・技術	部門目標	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	3-3 ○	36-36 ○							
	工程時間削減・環境負荷削減の工夫	製造部門長 技術部門長	各部門目標 4部門	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	4-4 ○	48-48 ○							
	不良損金削減	品質管理部門長	34万/月	238,132 ○	303,159 ○	279,683 ○	231,186 ○	411,188 ×	193,803 ○	390,573 ×	141,937 ○	77,724 ○	98,287 ○	133,910 ○	184,176 ○	223,647 ○

○は達成・継続中 △は目標値10%未満 ×は10%以上開きがあり未達 -は評価不能 他各目標達成部門(上段左の数)が8割以上○ 5割以下× 他△ は対象外月

### \*\*\* 2018年環境経営目標の達成状況報告 \*\*\*

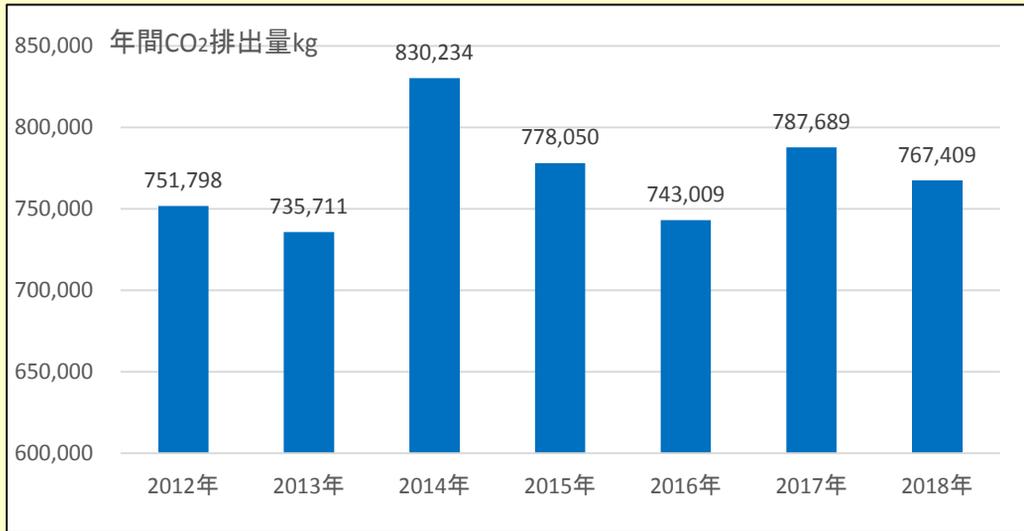
-----目標はほぼ達成、懸案の不良損金の削減も達成できた。-----

中期環境経営目標の最終年、2年続けて目標未達に終わった課題の不良損金削減は、品質ISO目標や職場の3S徹底など安全衛生目標ともリンクした活動を行なってきてようやく削減することが出来た。二酸化炭素排出量削減については2017年度版移行の関係で具体的な実目標には掲げなかったが、主たる要因の電気使用量が削減でき二酸化炭素の排出量は昨対**2.6%削減**できた。また生産活動が増える中、従業員数も増え可燃ゴミや生活水の使用が増えてきている。

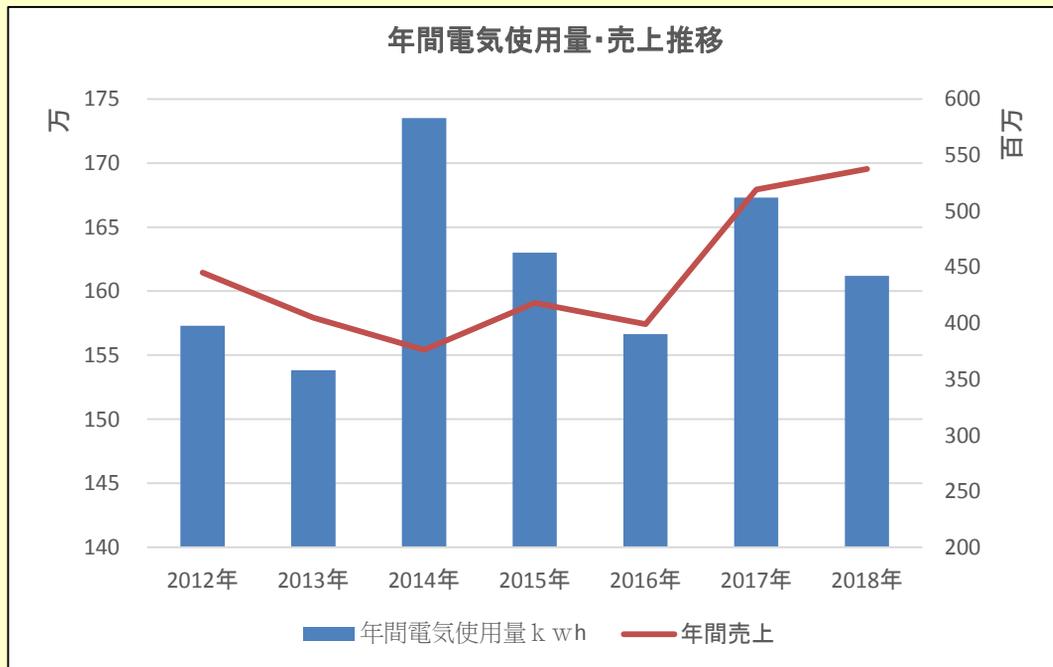
また工数削減や利益UP、業務改善などで効率良い生産活動が出来てきていることは今後の働き方改革にもつながることと期待している。(事務局)

1)環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組み結果とその評価（個別）

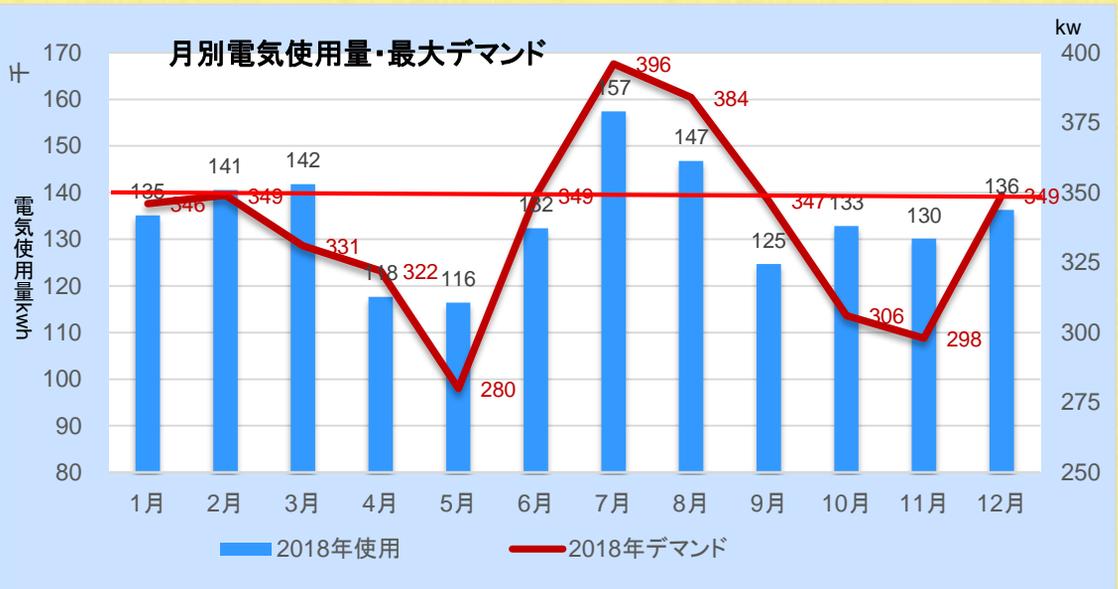
1 二酸化炭素排出量の削減 目標 ①電気料金削減 ピークデマンド350kw以下  
②エコ通勤の維持継続



※排出係数0.447（日本テクノ(株)）



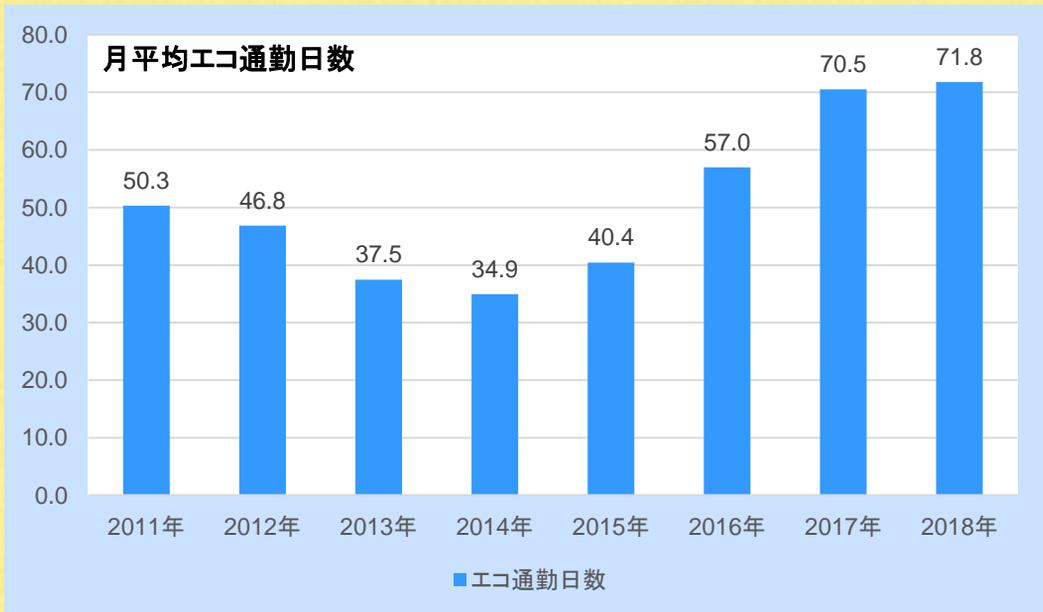
※当社の場合、二酸化炭素排出量削減の中心は電気の使用量削減であり、特に夏と冬のエアコン稼働が大きく影響する。今年は生産額は3.5%の大幅アップにもかかわらず、電気使用量は2.7%の減少で満足いく結果だった。  
**結果CO<sub>2</sub>排出量も2.6%減になった。**



①目標 ピークデマンド350kw以下

結果 10月達成 2月未達

※ 2018年は7月始めから梅雨明けとなり生産設備の稼働も好調なうえに後半からの記録的な猛暑により熱中症予防のため一時的にデマンドコントローラー制御を解除した。従業員健康管理のため7月後半から8月まではコントローラー制限値350kwから380kwへあげざるを得なかった。



②目標 エコ通勤日数月29日以上(冬季除く)

結果75.1日→全月達成

※9月には恒例の長野県主催の「ノーマイカーウィーク」に参加した。  
またマイカー通勤から電車通勤に替えた従業員や徒歩通勤継続者がいたためエコ通勤日数増加の状態が続いている。

## 2 廃棄物排出量削減



①可燃ゴミの削減について、全社で再生ゴミの仕分けを維持・徹底

数値目標155kg/月 結果161.3kg/月 未達成

従業員数が増えてきているのも可燃ゴミが増える原因になってきている。

②廃油量削減について、機械一・二部門対象 日常点検での油漏れ対策実施、継続中  
(廃油引取分)

数値目標2.10t/月 結果1.80t/月 達成

③機械備品の長期使用について、各部門定期点検・日常点検の実施、メンテの実施等を継続中、  
4部門でそれぞれ目標を掲げ活動をしてきた。

全部門目標達成

### 3 水源投入量削減



**数値目標110t/月以下 結果96.8t/月 達成**

※毎月機械部門での月々の水の使用量の報告(機械職場内に4箇所加算メータ設置により正確な使用量の把握が出来る。昨年11月に大きな漏水箇所がみつき対策を実施、その後100t前後で推移、従業員増による生活使用水が増えてきている。また期間中漏水は無かった。

4 化学物質使用量削減 **目標 取引先使用禁止物質の使用中止 達成**  
総務・管理部門 維持継続中

5 グリーン購入の実施 **目標 グリーン購入の維持 達成**  
総務・管理部門 維持継続中

### 6 製品への環境配慮;

①**工程時間削減又は合理化による負荷・無駄の削減**  
それぞれの目標値をもって4部門で活動 **達成**

②**売上・利益アップ**  
3部門対象 **達成**

③**不良損金削減 目標35万/月以内 結果22.3万円 達成**  
品質、安全衛生、環境からのアプローチをかけ重点目標として活動してきた。  
特に3Sの徹底に力をおいてやってきた。

## 2) 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2019年 環境経営計画書

### 2019年 環境経営活動計画書

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等	2019年の主な行動計画
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素の排出量削減	総務部門長/ 全社	前年実績 1%減	①デマンドコントローラー・スマートクロックによる監視・管理 ②エアコン稼働調整 ③節電設備検討 ④省エネ委員活動 ⑤節電表による管理継続
	冬季(12月～2月)を除いたエコ通勤の維持継続・エコドライブ実施(管理部門)	総務・管理部門長/ 全社	30日以上	①エコ通勤呼びかけ、活動報告掲示 ②駐輪場整備・自転車点検整備等 ③ノーマイカーウィーク参加 ④社用車のエコドライブの実施
廃棄物排出量削減	可燃ゴミと廃油削減	総務部門長・機械1部門長(廃油)/ 全社	前年実績1% 減 (159.72t/ 月以下)	①リサイクルゴミ仕分け徹底呼びかけ ②月ごと結果発表掲示 ③コピー両面使用 ④電子媒体促進、配布書類削減 ⑤廃棄切削油把握削減 ⑥油漏れ対策
	機械・備品の長期使用	製造部門長/ 製造部門	部門目標	①予知保全を考慮した各種設備品日常・定期点検の実施 ②整備点検教育の実施 ③各種精度点検の実施 ④レベル点検 ⑤設備保全技能教育
水源投入量削減	水源投入量維持管理	総務部門長/ 全社	前年実績1%減 (95.87t/月以下)	①毎月使用量内訳再把握 ②水漏れ点検 ③生活排水の節水呼びかけ④月使用量のグラフ作成掲示
化学物質使用量削減	使用禁止物質の使用禁止 使用化学物質削減管理	管理・製造部門長/ 管理・製造部門	維持 部門目標	①使用禁止物質の含有量調査(客先調査協力時)記録 ②新規溶剤等購入時にSDS取得 ④主要溶剤・切削油管理・削減 (製造部門)
グリーン購入の実施	グリーン購入継続維持	総務・管理部門長/ 総務・管理部門	活動維持	①グリーンサプライヤーからの購入維持 ②グリーン調達基準に基づく購入継続
製品への環境配慮 その他	売上・利益UP	総務・管理・技術各 部門長/ 同部門	部門目標	①新規品の取り込み、新規開拓 ②材料費の見直し ③経費分析 経費削減
	工程時間削減・環境負荷削減の工夫	製造・技術部門長/ 製造・技術部門	部門目標	①工数把握 加工時間短縮 ②工程管理表の有効活用 ③プログラム修正 ④工程削減治具作成 ⑤外段取りの構築 ⑥環境負荷削減の工夫・検証
	不良損金削減	品質管理部門長/ 機械一・二部門	30万/月以下	①不良集計表の作成・掲示 ②不良原因調査・対策実施 ③不具合対策表・不良損金報告書作成

## 8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

### 最新の「環境法令等遵守チェック表」の通り

### 2018/12 環境法令等遵守チェック表

適用法令	項目・条文	内 容	対象品・施設	チェック内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : H26.6.13改正  (H23.4.1施行)  水銀に関する 水俣条約 (H29.8.16)	12条2 (産業廃棄物保 管基準)  12条3 (委託の基準)  12条の3 (産業廃棄物管 理票)  12条7	1保管場所の囲い、構造耐力安全であること 2必要な事項を記載した掲示板60×60以上 3保管場所からの産廃の流出等防止、保管場所 の衛生管理  運搬又は処分を委託する場合には収集運搬・処 分を受けた業者に委託  1産廃委託する場合種類ごと、運搬先ごと引き 渡し時に必要事項を記載してマニフェストの 交付とその写しの回収(90日、最終処分180 日)回収出来ない場合の措置と報告義務 2マニフェスト(写し)の5年保管 3マニフェスト発行状況の報告を毎年6月30日ま でに都道府県知事へ提出  産廃物の処理状況の確認と適正のための必要処 置を講ずる(努力義務)  廃棄物保管場所の掲示板表示 「水銀使用製品産業廃棄物」	・ゴミ置き場 ・廃油置き場 ・危険物置き 場  委託契約書 許可証  マニフェスト (管理票)  マニフェスト報 告書  1F 廃蛍光管置 き場	総務部門 1確認済 2確認済 3確認済  確認済  1確認  2保管中 3提出済 (2018/6/11)  2018/12/14 電話で確認  2018/6/18確認
家電リサイクル法 H23.6.24改正	6条 (事業者の責務)	特定家電長期使用、排出抑制 廃棄の際、適切な引渡し・料金支払	テレビ・エアコ ン・冷蔵庫 洗濯機	総務017/11 以降廃 棄無し
小型家電リサイクル法 H25.4.1		可能な場合、対象物を分別して認定業者に渡す事	携帯電話・デジタ ルカメラ他	総務 期間中は該当無し
水質汚濁防止法 : H23.8.30改正	12条	特定施設ではない 排水基準に適合しない排水を排出禁止 (コンプレッサーのドレイン水の油水分離)	コンプレッサー・2 台 排水管理	業者点検実施済 継続中(月1回)技 術部門 問題なし
下水道法 : H26.6.13改正	12条の2	①pH9を超える処理液の場合は、水質汚濁防止法別 表1の65酸又はアルカリによる表面処理施設に該当 し、特定施設となる。(届出等必要)  ②下水道には下水道基準(pH9等)を超える排水を 流さない。	バレル室 第二洗浄室 工場内洗面所	機械一部門 機械二部門 ①現状該当無し ②バレル室は現在水 のみ 第二工場は希釈して 排水を実施中

騒音規制法 :H17.4.27改正	6条 (設置の届出)  伊那市環境保全 条例 (12条)	特定施設を設置する場合市町村長へ届出 (コンプレッサー2台)  発生する騒音の規制 届け出のみ(伊那市) (70-65db以下)	コンプレッサー (37kw2台)	総務部門 届出済 2015.03.24 1台入替 2015/3/25届出済 入替分 2017/9 新コン プレッサー 37M6AR年次点 検8月済み
消防法 H26.6.13  危険物の規制に関する規則 H23.2.1  危険物の規制に関する政令  伊那市条例	9条3  第18条  同省令  14条3の2	指定数量以上の危険物があるか 届出しているか  ①危険物標識の掲示 ②既設地下貯蔵タンクの流出防止対策等 2024/10/15まで対策実施する事  定期に点検し、その点検記録を作成し、これ を保存  指定数量以下(1/5以上)届出(消防署)	地下タンクの石油 地下タンク  地下タンク  地下タンク  少量危険物置場	総務部門 確認済 無し 届出済  ①確認済 ②確認済  2018/5/2定 期点検実施 保存確認 届出確認
特定化学物質の環境への排出量 の把握等及び管理の改善の促進 に関する法律:H14.12.13	2条 5条 (排出量等の把 握及び届出)  14条	第一種指定化学物質等取扱事業に該当するか (第一種指定化学物質のいずれかを1年間に 1t以上取り扱うか) PRTR制度より排出・移動量の届出(6月ま で)	把握後判定	総務部門  非該当
フロン排出抑制法 H27.4.1	施行規則による	①機器の設置環境・使用環境維持保全 点検・修理を行う作業空間の確保はできて いるか ②簡易点検・定期点検の実施をする 簡易点検 1回以上/3ヶ月7.5kw未満 定期点検 1回以上/1年----50kw以上 1回以上/3年----7.5kw以上 50kw未満 点検整備記録の作成・保存 ③フロン漏洩時の措置 修理が終わりまで充填禁止 一定以上の漏洩は国へ報告義務 ④フロン充填・回収、製品の廃棄は「第一種 フロン類充填回収業者」へ委託 必要書面の交付・保存をする	各所工場設置箇所	総務部門 設置部門  ①確認OK ②簡易点検実施 済み3月ごと  ③漏洩無し  ④該当無し

2018年12月14日現在の環境法令遵守状況をチェックし、法令に遵守していることを確認しました。また過去3年間違反・訴訟の無いことを報告します。

2018年12月14日 総務部長 浦野 安明

## 9 代表者による全体評価と見直しの結果

----- 2017年12月 マネジメントレビューより -----

- ① 品質活動ともからみ昨年から改善目標として取り上げている高額不良損金の削減について目標以下に抑えることが出来なかった。次年度も引き続き不良損金の削減に努める。
- ② 職場の整理整頓についてクリーン化に向けて計画的にこれに取り組む。

(2017.12.20 代表取締役 平澤 一司 )

----- 2018年12月 マネジメントレビューより -----

2017年12月のマネジメントレビューより、2018年は①高額不良損金の削減②職場のクリーン化について1年間活動を行ってきました。高額不良削減については、何とか達成出来ました。

しかし、まだまだ、日々のルールを怠ったり、ルールを知らなかったりすると不良発生に繋がってしまいます。また、クリーン化についても絶えず取組まなければいけない活動です。

2019年は不良の削減、業務効率のUP、さらには売上UPをエコアクション21の活動の中心とすえ、活動に展開します。

不良の削減には、職場の整理、整頓、清掃がまず欠かせない。業務効率の改善にも整理、整頓、清掃が欠かせない。いわゆる3S活動は、必須活動として継続していただきたい。

身近な所から活動していただきたい。製品を運ぶプラコンに切粉が入っているようでは、どんなにキズ、打痕を防ごうとしても防げません。ちょっとした心がけが必要です。

次に、個々の仕事の力量を上げましょう。外部教育もさることながら上司、先輩が職場で得た知識(ルール)を標準化し適切な教育を行い全体のスキルを上げ、不良の削減、業務効率UPに繋げましょう。何年も経験を積み、当然と思っている知識が他の人には不明な時があります。機械加工のプログラム、段取りの仕方もバラツキがあります。スキルを上げましょう。

3S活動とスキルアップが具体的な活動計画の重点項目です。

(2018.12.20 代表取締役 平澤 敏樹 )

## 10 その他の取り組み・トピックス

### 1 代表者(社長)が代わりました。

2018年12月1日から社長だった平澤 一司が退任し、新たに環境管理責任者だった専務が社長に代わりました、これに伴い環境管理責任者は事務局が引き継ぎ、新しい体制がスタートしました。



#### ■ 新社長あいさつ

創業当時、光学機器の組み立て及び金属加工を主業務に据えお客様の信頼を勝ち取るべく、品質・納期・価格に全力で対応してまいりました。

光学機器の組み立て、特にフィルムカメラの組み立てにおいては、お客様からの信頼を勝ち取りほぼ一貫生産を行いました。しかし、それ以上に対応に迫られたことは時代の変化への対応、生産拠点の変更と技術革新です。生産の海外移転、フィルムカメラからデジタルカメラ、そしてスマホへの技術革新...予想を上回る速さで押し寄せてきました。

現在は金属加工を中心に様々な業種のお客様とお付き合いするよう心掛けています。光学機器、半導体製造装置、液晶製造装置、航空機、車両、空圧、食品メーカーと得意のアルミ加工を中心にお取引いただいています。変化する時代の中で社会に必要とされ続ける企業となれるよう全社一丸となって邁進してまいります。

代表取締役 平澤 敏樹



## 2 総合防災訓練等を実施しました。

### 1 総合防災実施

10月26日 例年同様地震後火災が発生した場合を想定した訓練と、油漏れ対応の訓練を実施した。(毎年繰り返す事により、非常時の対応を確実にする事を目的) 訓練は震度6の地震により1F機械工場のフライス盤付近から出火したというケース、付近の初期消火係数名が消火活動にあたるとともに、他はそれぞれの役目を遂行し避難場所まで安全迅速に退避行動をとり、人数確認、重要品の持ち出し、負傷者の対応の確認を行なった。また事務局より火災時における二酸化炭素の性質と中毒についての説明を行なった。

つぎに移動して廃油タンクからの油漏れが発生したというケースで、新人2名によるオイルソックスを使った油漏れ対応の実践をおこなった。その後担当部門長からの対応内容の説明を行なった。

### 2 全体研修実施(防災訓練後の集合研修として)

- ① 専務より避難訓練の総括と翌年への課題(人数確認の遅れ)
- ② 環境活動について(事務局)
  - ・環境目標の進捗状況
  - ・電気料金高騰対策 契約変更の内容について
  - ・エコアクション21 2017年度版移行について 環境経営 課題 チャンス等
- ③ BCPについて(事務局)
  - ・本年度の変更点について
  - ・災害後の自宅待機についての明確な基準について
  - ・社内連絡網から最新従業員携帯カードの作成
- ④ 社会保険関係の連絡、就業規則、働き方改革について(総務)
- ⑤ ストレスチェックの実施(総務) 人員増加により今年から実施





油漏れ訓練



研修風景

